

経営比較分析表（令和5年度決算）

新潟県 三条市

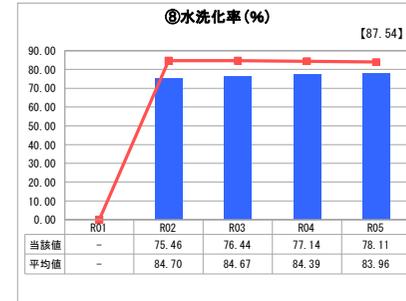
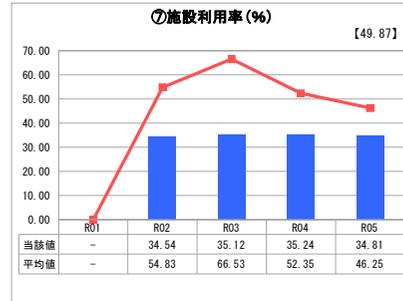
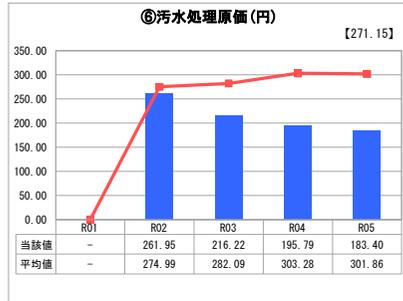
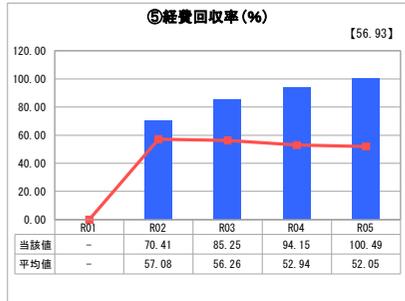
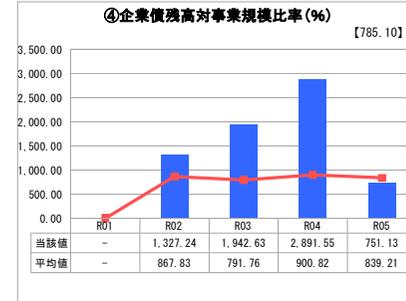
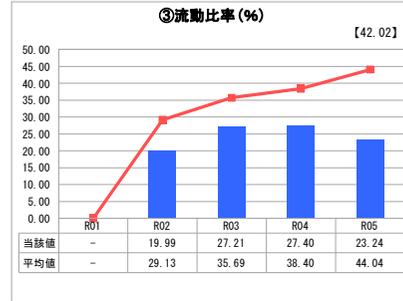
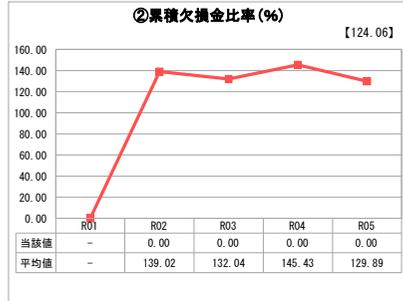
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	55.50	8.79	97.85	3,795

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
92,359	431.97	213.81
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
8,078	6.29	1,284.26

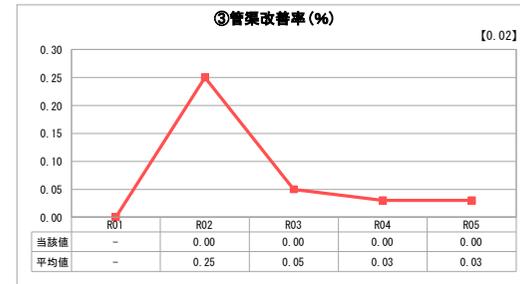
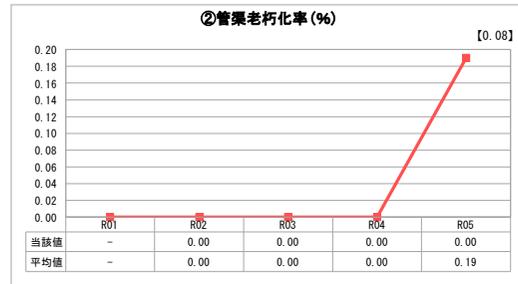
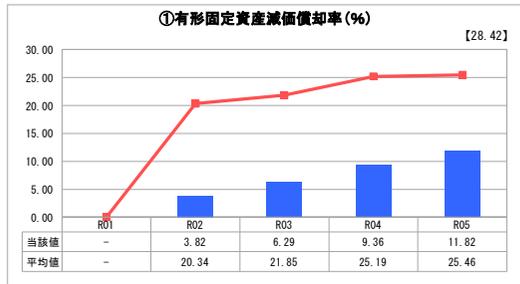
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市の農業集落排水事業は、12の処理区を有しており、平成4年度に福多地区の整備事業を着手以降、各処理場建設工事、幹線工事、面整備を経て平成24年度に下保内地区の供用開始を最後に整備事業が完了した。本事業は建設から維持・運用の時代に入っており、今後は健全で効率的な事業運営が求められている。

経営状況については、①経常収支比率100%を上回っているが、実態としては一般会計からの基準外繰入金により収支均衡が図られているため、経営状況は依然として厳しい状況である。

③流動比率については、経費に占める企業債償還の割合が依然として高く、償還のための財源を繰入金に依存していることから、類似団体平均値を下回っている。

また、⑦施設利用率及び⑧水洗化率が低いことから、接続率向上に向けた対策に引き続き取り組むことで、使用料収入の確保を図る。

2. 老朽化の状況について

現在、整備を進めている状況であり、現時点では老朽化した施設はない状態である。しかし、類似団体と比較すると低いものの①有形固定資産減価償却率も年々上昇しており、今後の管渠老朽化に備えて、将来を見据えた計画的な老朽化対策が必要となる。

全体総括

繰入金に依存している現状から脱却するため、接続率向上に向けた対策を着実に進め、安定した使用料収入の確保を図る。

また、人口減少や少子高齢化に伴う地域社会構造の変化に対応するため、吉野屋地区を大潟地区へ統合(R7年度実施予定)や帯織地区及び福多地区の特定環境保全公共下水道(栄処理区)への統合(R8年度実施予定)に取り組んでいるところであるが、今後も徹底したコスト削減を図りつつ、持続可能な事業運営を目指す。

なお、当市では予算の弾力条項既定の適用や建設改良費予算の繰越手続の簡素化など予算執行の弾力化を図るとともに、ストックやコスト情報を明確にし、下水道事業会計の実態をこれまで以上に把握することを目的に令和2年度から財務会計部門において法適用事業(公営企業会計)へ移行している。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。